

(予報) オガサワラホソハマトビムシ (節足動物門：
甲殻亜門：端脚目) の小笠原諸島弟島からの初記録

富川 光 (広島大学 大学院教育学研究科)
島野 智之 (法政大学 自然科学センター)

要 約

オガサワラホソハマトビムシは、小笠原諸島固有のハマトビムシ科端脚類である。これまでに父島と母島から記録されている (森野, 1991; Morino and Miyamoto, 2015; 渡邊, 2017)。本種は海岸の打ち上げ海藻の下や内陸の森林に出現する。2015年、第2著者は小笠原諸島の土壌性無脊椎動物の調査を行い、弟島からオガサワラホソハマトビムシを初めて採集したので報告する。

オガサワラホソハマトビムシ

Pyatakovestia boninensis Morino and Miyamoto, 2015

検討標本：雌 8.8 mm、2015年2月28日、弟島の広根山トンボ池付近の低木林のリター (図1) から見つけ採り法で採集 (27.182429° N, 142.188932° E; 標高 14 m)。得られたサンプルは99%エタノールで固定・保存。体長は額角の先端から尾節板の基部までとし、背側に沿って0.1 mm単位で測定した。

謝辞

可知直毅博士 (首都大学東京) と小笠原研究委員会には多大なご協力をいただくとともに、父島の研究施設を利用させていただいた。心より感謝を申し上げます。研究試料は国土交通省と東京都から採集許可 (No. 1501301, No. 217-1, No. 1238) を受けたものである。また、本研究はJSPS科研費JP17K15174, JP17H00820、及び15K07201の助成を受けたものである。環境省版レッドリストへの対応のため、予報として事前に和文で報告するが、詳細はTomikawa and Shimano (in prep.) にて改めて報告する。



図 1 弟島の広根山トンボ池と付近の低木林.

文 献

森野浩 (1991) 小笠原のハマトビムシについて. 第 2 次小笠原諸島自然環境現況調査報告書. 東京都立大学, 231-235.

Morino H, Miyamoto H (2015) Redefinition of *Paciforchestia* Bousfield, 1982 and description of *Pyatakovestia* gen. nov. (Crustacea, Amphipoda, Talitridae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series A* 41: 105-121.

渡邊昂平 (2017) 小笠原諸島父島におけるヨコエビ類について. 小笠原研究年報 40: 59-72.